

2025年11月号

INVEST IN  TÜRKİYE

FDI AGENDA



投資・財務局からのメッセージ

10月もまた、トルコが世界中の多様な産業とプラットフォームにおいて、革新・成長・投資の要として影響力を拡大していることを示しました。

レジェブ・タイップ・エルドアン大統領によるクウェート、カタール、オマーンを巡る3日間の湾岸諸国訪問は、トルコと湾岸地域との戦略的関係における新たなマイルストーンとなりました。エネルギー、防衛、運輸、投資などの重要分野において計24件の協定・覚書が締結され、地域協力と共通の成長の次段階を形作るパートナーシップが深化しました。

国内では、 chevdet・ユルマズ副大統領を議長とする「2025年投資諮問委員会」が大統領府ドルマバフチェ業務事務所で開催され、閣僚、民間セクターのリーダー、総時価総額15兆米ドルに上る33のグローバル投資家が一堂に会しました。デジタル化とグローバル・バリューチェーンに焦点を当てた本会議は、トルコの経済的回復力への確信を再確認するとともに、イノベーションと持続可能な開発を促進するための質の高い外国直接投資（FDI）誘致への継続的な取り組みを表明しました。

トルコの世界的技術ハブとしての地位もさらに強化されています。ウーバー（Uber）がイスタンブールに主要技術ハブを設立する決定は、北米以外では同社最大規模の投資の一つとなり、モビリティとデジタルソリューション分野におけるトルコの競争力を改めて証明しています。

一方、イスタンブールでは初の Slush'D が開催され、現地スタートアップとグローバル投資家を結びつけ、トルコの起業家エコシステムの活力を浮き彫りにしました。

GITEX GLOBAL 2025 では「Turcorn – Invest in Türkiye」をテーマに、投資・財務局と産業技術省が統合した国家ブースを出展。この勢いを背景に、GITEX Ai Türkiye が2026年にイスタンブールで開催されることが正式発表され、ユーラシアの中心地における新たなグローバル技術プラットフォームが整いました。

トルコはまた、第18回ヴェローナ・ユーラシア経済フォーラムと第6回 FDI・都市フォーラムを主催し、政策立案者、投資家、専門家を結集して持続可能な成長、紛争後の復興、都市のレジリエンスについて議論しました。さらに、第13回イスラム経済・金融サミットは、金融分野における知識、倫理、イノベーションの中心地としてのイスタンブールの役割の拡大を改めて強調しています。

実業面では、BASF がディロヴァスに生産ラインを新設しトルコ進出145周年を祝う一方、オランダの物流大手ラーベン・グループがトルコ事業拡大を進め、同国が製造業と物流の結節点としての地位を強化しました。

あらゆるイニシアチブ、イベント、パートナーシップを通じて、トルコは大陸、市場、文化、アイデアの架け橋を築き続け、持続可能な成長とグローバルな協働の未来を形作っています。投資・財務局では、このビジョンを推進し、トルコを世界の結節点として確固たる地位に据えることに引き続き尽力してまいります。



A・ブラク・ダールオール投資・財務局総裁



エルドアン大統領の湾岸諸国訪問で 24 件の合意・共同声明・宣言を締結

レジェブ・タイップ・エルドアン大統領はクウェート、カタール、オマーンを巡る 3 日間の湾岸諸国訪問を終えました。この訪問期間中、トルコと湾岸パートナー国はエネルギー、防衛、運輸、投資、教育など多岐にわたる分野で 24 件の協定、共同声明、覚書（MoU）に署名しました。

エルドアン大統領はクウェートへの公式訪問で歴訪を開始し、バイヤン宮殿でメシャル・アル＝アフマド・アル＝ジャビール・アル＝サバーフ首長による国賓待遇で迎えられました。両首脳は貿易・運輸・エネルギー・投資分野での協力強化を焦点に、二国間会談及び代表団レベルの会談を行いました。会談では、トルコとクウェートが海上輸送協定に署名するとともに、船員証明書の相互承認および両国機関間のエネルギー協力に関する覚書（MoU）に調印しました。

調印式の一環として、投資局総裁 A・ブラク・ダールオール氏は、クウェート直接投資促進庁長官シェイク・メシャル・ジャベル・アル＝アフマド・アル＝サバーフ博士と、両国間の直接投資協力促進に関する覚書に署名しました。

カタールでは、エルドアン大統領はハマド国際空港にてタミーム・ビン・ハマド・アル＝サーニー首長に迎えられました。両首脳はアミール宮殿で包括的な会談を行い、二国間関係と地域問題について協議しました。防衛、エネルギー、貿易、投資分野での協力強化、ならびに人道支援・開発イニシアチブにおける連携強化が議論の中心となりました。

訪問中、両国はトルコ戦略予算庁とカタール政府間の戦略的開発計画に関する覚書をはじめ、防衛産業及び貿易協力における新たな協定を含む複数の重要文書に署名しています。

投資分野では、投資・財務局総裁 A・ブラク・ダールオール氏がカタール金融センターと覚書を締結。金融・投資分野での協力強化、二国間投資機会の促進、金融技術イニシアチブの支援、両国金融セクター間の制度的連携強化を図りました。

両首脳はまた、第 11 回トルコ・カタール戦略協力委員会会合に続いて共同宣言を採択し、アンカラとドーハ間の戦略的パートナーシップの深さを強調しました。

エルドアン大統領はオマーンへの公式訪問で湾岸諸国巡りを締めくくり、マスカットのアラーム宮殿でハイサム・ビン・タリク・スルタンによる公式歓迎式典が行われました。訪問中には広範囲に及ぶ覚書と協力協定が調印されました。両国はまた、調整評議会の設置と一般旅券所持者へのビザ免除を導入する共同声明に署名し、トルコ・オマーン関係の新段階を示しました。

エルドアン大統領の湾岸訪問中に締結された一連の合意は、トルコと湾岸諸国とのパートナーシップ強化を浮き彫りにしています。



エルドアン大統領、第 11 回エネルギー効率化フォーラム・展示会でトルコの持続可能性ビジョンを強調

レジェブ・タイイップ・エルドアン大統領は、イスタンブール・コンgresセンターで開催された第 11 回エネルギー効率化フォーラム・展示会で基調講演を行い、エネルギー分野におけるトルコの成果と長期的な持続可能性目標に関する重要な見解を示しました。

産業界の主要人物らを前に演説したエルドアン大統領は、エネルギーとエネルギー供給の安全保障が人類にとって最も戦略的な課題の一つとなったと強調し、エネルギー政策とインフラの様々な分野におけるトルコの目覚ましい進展を強調しました。

演説の中でエルドアン大統領は、2025 年 1 月から 9 月にかけてトルコ国内で約 13 万 4 千台の電気自動車が発売された事実を挙げ、グリーンモビリティと技術変革への注力が拡大している現状を指摘しています。

大統領はまた、2002 年以降の天然ガス分野における著しい進展を強調し、「2002 年当時、国内で天然ガスインフラが整備されていたのはわずか 5 都市のみでした。現在ではこのネットワークを全 81 県に拡大しています。2002 年には人口のわずか 33%が天然ガスを利用できましたが、この数値は現在 85%に達し、さらに上昇を続けています」と述べました。

⇒エネルギー輸入依存度低減に向けたトルコの取り組みを強調し、エルドアン大統領は国内の天然ガス消費量が 2002 年の 174 億立方メートルから 2024 年には 532 億立方メートルに増加し、2025 年には 595 億立方メートルに達する見込みであると述べました。

トルコの「2053年ネットゼロ排出ビジョン」の主要柱の一つとしてエネルギー効率を強調し、エルドアン大統領は次のように述べました。「我々はエネルギー効率を単なる資源保全の問題ではなく、産業競争力の推進力であり、気候危機との闘いにおける重要な手段と捉えている」

大統領は、2002年以降、政府がエネルギー効率向上のための包括的なプロジェクトを実施し、エネルギー効率を32%改善したと説明しています。

「製品・サービス当たりのエネルギー消費量を3分の1削減しました。世界のエネルギー原単位改善率は年平均約1%であるのに対し、トルコは4.5%の改善を達成し、エネルギー効率の推進において世界最速クラスの国の一つとなっています」とエルドアン大統領は述べました。



エルドアン大統領、第 5 回トルコ・アフリカビジネス経済フォーラムで世界の要衝としてのトルコの特異な立場を強調

レジェップ・タイイップ・エルドアン大統領はイスタンブールで開催された第5回トルコ・アフリカビジネス経済フォーラムで演説し、トルコの戦略的立地、経済成長の可能性、そしてグローバルな投資パートナーシップ育成への取り組みを強調しました。

エルドアン大統領は、トルコが世界の結節点となるというビジョンを強調し、次のように述べました。「急速に成長する経済、ダイナミックな投資環境、そして三大陸の交差点という独自の地理的位置により、トルコは世界中のあらゆる地域の投資家や起業家に対して門戸を広く開いています。」

大統領は、同国の強固な投資エコシステムが専門的な公的機関によって支えられていることを強調し、次のように付け加えた。「大統領府傘下の投資・財務局を含む、わが国の関連するすべての省庁・機関は、トルコへの投資を希望する方々に、あらゆる形の支援を提供する準備ができています。」

エルドアン大統領は過去 23 年間のトルコ経済の成果を振り返り、主要指標を共有しました。「我々は年平均 5.4%の成長率を達成しました。国民所得は 2002 年の 2,380 億ドルから 2024 年には約 1.5 兆ドルに増加。一人当たり所得は 3,608 ドルから 14,751 ドルへ上昇し、2025 年第 2 四半期には 17,000 ドルに迫っています。2002 年に 270 億ドルだった中央銀行準備高は現在 1,897 億ドルに達しています。2002 年に 360 億ドルだった輸出額は現在 2,700 億ドルに迫っています。」

エルドアン大統領はトルコの国際的な経済的地位を強調し、2024年時点で名目ベースでは世界第17位、購買力平価（PPP）ベースでは第12位の経済規模であると指摘しました。「2025年までに第11位に上昇すると予想しています」と付け加えました。

大統領はまた、2002年以降のトルコのインフラと公共サービスにおける主要な進展を概説しました。「空港数は26から58に、教室数は34万3000から61万5000以上に、大学数は76から308に増加しました。医療分野では病床数を16万4000から27万1000に拡大し、市民にサービスを提供する最先端の都市病院を25施設設立しています。」

エルドアン大統領は、トルコとアフリカの深い結びつきに触れ、両地域の関係は10世紀にまで遡ると強調しました。「2005年、我々は『トルコにおけるアフリカ年』を宣言し、大陸との関係に新たな章を開きました。共同の努力を通じて、トルコ・アフリカ関係が戦略的パートナーシップの段階に達したことを大変嬉しく思います」と述べました。

このパートナーシップの象徴として、エルドアン大統領はトルコ航空が現在アフリカ42カ国・64都市への路線を運航し、両地域間の接続性を大幅に強化している点を指摘しました。



投資諮問委員会、デジタル・サプライチェーンの未来を形作るためグローバル企業を招集

ジェヴデット・ユルマズ副大統領が議長を務める投資諮問委員会（IAC）が、大統領府ドルマバフチェ業務事務所で開催されました。会議には閣僚、官民機関の代表者、11 カ国から集まった時価総額合計 15 兆米ドルに上る 33 の国際投資家が参加しました。

ユルマズ副大統領は出席者への挨拶で、外国直接投資（FDI）がトルコの経済変革において果たす重要な役割を強調し、「FDI はトルコの経済発展を牽引する最も重要な要素の一つである。1973 年から 2002 年までの 30 年間でトルコが誘致した FDI はわずか 150 億米ドルであったのに対し、2003 年以降の累計 FDI は 2025 年 7 月時点で 2,820 億米ドルに達している」と述べました。

2024 年単年では FDI 流入総額が 113 億米ドルに達し、2025 年 7 月時点の年率換算では 138 億米ドルに上昇、近年で最高水準を記録。投資内容も高付加価値プロジェクトへの移行を示唆しています。トルコのグローバル・バリューチェーンへの統合を強化する、輸出志向型・気候変動対策対応・高度技能雇用創出型の投資の割合は拡大を続けています。この勢いを維持・強化するため、トルコ政府は既存投資の拡大と新規投資誘致の両方に焦点を当てた改革アジェンダを積極的に推進しています。

2004 年以降、IAC 会議は国際的な知見と協力を通じた投資環境の改善を目指し、グローバルビジネスリーダーとトルコ政府高官との主要な対話の場として機能してきました。これらの会議は、投資環境改善調整評議会（YOIKK）の下で民間セクターと実施される協議プロセスにも大きく貢献しています。

今年の会合では、再び国際企業の幹部らがイスタンブールに集結し、対話と協働のための生産的な環境が創出されました。「グローバルサプライチェーン」と「デジタル投資」をテーマに開催された 2 セッションでは、投資家の視点とトルコのビジネス・投資エコシステムをさらに発展させるための提言について、深い議論が交わされました。

閣僚や上級官僚が参加したセッションでは、トルコの国際競争力強化と持続可能な成長を支える幅広い戦略的課題が取り上げられました。主要な議論テーマには、グリーンエネルギー能力の拡大、物流インフラの強化、AI 技術の推進、デジタルインフラの改善、サプライチェーンの安定化、そして二つの変革に向けた人的資本の構築が含まれました。

本年開催の IAC 会議の一環として、投資・財務局と、世界をリードする旅行・輸送技術企業アマデウスとの間で覚書（MoU）が締結されました。この戦略的提携はデジタル技術活用によるトルコの旅行・観光エコシステム強化を目的としており、技術輸出と熟練労働力の育成に大きく貢献することが期待されています。

次回の IAC 会議は 2026 年に開催予定で、レジェプ・タイイップ・エルドアン大統領が議長を務め、主要国際企業の上級幹部が出席します。本会議で共有された知見は、トルコの現在推進中の改革アジェンダを導く指針となり、世界の結節点としての地位をさらに強化するでしょう。



カチル大臣、テュルク世界における技術力統合のビジョンを強調

産業技術大臣 M・ファティフ・カチルは、アゼルバイジャンのミカイル・ジャバロフ経済大臣主催のもとバクーで開催された「テュルク諸国機構（OTS）第 2 回産業・科学・技術・イノベーション閣僚会議」に出席しました。

本会議には加盟国・オブザーバー国の閣僚が集結し、イスタンブールでの第 1 回会合で採択された行動計画を検証するとともに、テュルク世界における科学・技術・イノベーション分野での協力強化を図りました。同組織の戦略的パートナーシップを深い技術統合へと発展させるための新たな一歩となりました。

カチル大臣は演説で、OTS 加盟国が共同生産・投資・商業化モデルを通じて技術的強みを結集することを目指すと強調。「共同生産・共同投資・共同商業化モデルの開発により技術能力の統合を目指します」と述べ、産業変革への共通アプローチの必要性を訴えました。

カチル大臣は、この協力の基盤がイスタンブール会合で築かれ、合意された行動計画が具体的な成果を上げ始めていると指摘。2024 年には研究開発協力、グリーン移行イニシアチブ、デジタル産業プロジェクトなどの分野で著しい進展があったと述べました。

大臣はさらに、地域のイノベーション推進役として機能するテクノパークや工業団地間の協力強化を強調。加えて、加盟国のデジタルインフラ統合、サイバーセキュリティ連携強化、若者を変革プロセスに巻き込むための人工知能・デジタルスキル訓練における共同プログラム立ち上げ計画が進められていると述べました。

さらに大臣は、貿易障壁の削減と加盟国間の経済的回復力強化に向け、計量・標準化・製品安全・適合性評価分野における共同プラットフォーム構築に向けた追加的取り組みが進められていると付け加えました。

カチル大臣は、OTS が新たな産業時代における主要な技術的役割を担うことを目指していると述べました。「世界経済の急速な変革は、機会と責任の両方をもたらします」と彼は指摘しました。「グリーン化、デジタル化、人工知能、先進的な製造技術、宇宙研究が、今や産業の中核的なダイナミクスを定義しています。私たちはこの

変革に追随するだけでなく、それを主導しなければなりません。共通の技術統合を加速することで、テュルク世界がこの新しい産業時代において確固たる地位を確保できるでしょう。」

訪問中、カチル大臣はキルギスのバキト・シディコフ経済貿易大臣、OTS のクバニチベク・オムラリエフ事務局長とも二者間会談を行い、加盟国間の科学、技術、イノベーションにおける協力と統合の深化について意見交換を行いました。

カチル大臣のバクー訪問は、トルコが戦略的協力から、テュルク系パートナー諸国との完全な技術統合へと前進する決意を強調するものでした。ハイテク分野における連携を強化することで、トルコは研究開発における競争力の強化、輸出の拡大、そして世界の結節点としてのグローバル・バリューチェーンにおける地位の強化を目指しています。テュルク世界全体における技術能力の統合は、地域連帯と技術進歩が共有された未来を反映し、革新主導型で強靱かつ協調的な産業エコシステム構築というトルコの広範なビジョンと合致します。



トルコ、8月に過去最高の54億5000万ドルの経常収支黒字を記録

メフメト・シムシエク財務大臣は、トルコが8月に過去最高の月間経常収支黒字54億5000万ドルを記録したと発表しました。同大臣は、年率換算の経常収支赤字が183億ドルに縮小し、2023年5月と比較して376億ドルの改善を示したと指摘しました。

シムシエク大臣は、この改善によりトルコの対外資金調達ニーズが減少するとともに、外貨需要の低下、対外資金調達へのアクセス改善、堅調な準備高を通じてマクロ金融の回復力が強化されると強調しました。

トルコ共和国中央銀行（CBRT）発表のデータによると、8月の黒字は7月の17億ドルに続くもの。金・エネルギーの収支を除くと黒字は約100億ドルに達しました。年率換算の経常収支赤字は7月の188億5000万ドルから8月は182億8000万ドルに縮小しました。

8月の財貿易収支は約28億ドルの赤字となりました。観光収入は堅調な観光客流入に支えられ約77億ドルに達し、運輸サービスはさらに28億ドルを貢献しました。

資金調達面では、純直接投資流入額が10億米ドル近くに達し、国際投資家が18億米ドルを拠出する一方、トルコ居住者は海外に約8億米ドルを投資しました。融資流入は約270億米ドルに急増し、貿易信用供与と預金はそれぞれ30億米ドル、14億米ドル増加しました。ポートフォリオ投資は、外国によるトルコ株式・国債購入の合計額が約19億米ドルに達したにもかかわらず、7億米ドルの小幅な純流出を記録しました。

この記録的な経常収支黒字と強化された金融バッファーにより、トルコは世界的な経済ショックや不確実性に耐える「レジリエンスの要」としての地位を確固たるものにしました。



ボラト大臣のルーマニア訪問：戦略的経済パートナーシップの強化

オメル・ボラト貿易大臣は、トルコの中東欧における主要な経済・貿易パートナーであるルーマニアを公式訪問しました。今回の訪問は、両国間の強固な関係を支える基盤である戦略的パートナーシップと相互信頼を再確認するものでした。

訪問中、ボラト大臣はルーマニア投資・対外貿易庁（ARICE）のドルー・クラウディアン・フルンズリカ副長官と会談しました。

会談では、投資、電子商取引、新規プロジェクト、銀行・金融分野での協力、医療観光、物流、防衛産業における新たな機会など、二国間経済アジェンダの主要項目について詳細な検討が行われました。

双方は、経済協力推進における共同経済委員会（JEC）や共同経済貿易委員会（JETCO）といった制度的枠組みの重要性を強調。この文脈で、第3回トルコ・ルーマニア JETCO 会合を 2026 年前半にトルコで開催することで合意しました。

ボラト大臣は、レジェップ・タイイップ・エルドアン大統領が掲げる「トルコを生産・物流・貿易の地域的ハブとして位置付ける」というビジョンに沿い、二国間貿易額を 150 億米ドルに拡大するトルコの決意を改めて表明しました。

大臣はまた、トルコ・EU 関税同盟の近代化、欧州グリーンディールに基づく共同イニシアチブの実施、人材交流とビジネス協力の強化に向けたビザ手続きの簡素化における協力の重要性を強調しました。

訪問の傍ら、ボラト大臣と代表団はルーマニア・トルコ商工会議所のメンバーと会談し、ビジネスパートナーシップの強化、民間セクターのイニシアチブ支援、新たな投資・貿易機会の模索について議論しました。

ボラト大臣は、同商工会議所が二国間経済関係に貢献していることに謝意を表明し、持続可能な成長と共有の繁栄を促進する上でビジネス主導のプラットフォームが果たす重要な役割を強調しました。

ボラト大臣はまた、ブカレストの大統領宮殿で開催された共和国祝賀式典および GAP オスカー賞授賞式に出席し、トルコとルーマニアの外交関係樹立 147 周年およびトルコ共和国成立 102 周年を祝賀しました。ボラト大臣は、「トルコの世紀」のビジョンに基づき、あらゆる分野でルーマニアとの協力を深化させるというトルコの決意を改めて表明しました。



イスタンブールで開催された第 16 回トルコ・アラブ経済フォーラムで国際連携を強化

第 16 回トルコ・アラブ経済フォーラム (TAF) は、外務省、投資・財務局、アラブ連盟、湾岸協力会議、トルコ商工会議所連合、アラブ商工会議所連合の支援を受け、メフメット・シムシェク財務大臣がイスタンブールで主催しました。

政府高官、政策決定者、ビジネスリーダーが一堂に会した TAF 2025 は、国際協力を強化し、投資、金融、技術、エネルギーにおける機会を探求するための重要なプラットフォームとしての役割を果たしました。今年のテーマは「イスタンブールで世界をつなぐ 3 つの橋」でした。

シムシェク大臣と TOBB 会長の M. ルファト・ヒサルチュクルオール氏による開会の挨拶に続き、投資・財務局副局長のフルカン・カラヤカ氏が聴衆に向けてスピーチを行いました。カラヤカ氏はスピーチの中で、トルコが世界の結節点として戦略的に重要な役割を担っており、国際的な投資家にとって信頼できるハブとしての地位を確立していることを強調しました。



AI と未来を形作る産業が議論される「デュニャ・グローバル経済サミット」

トルコの日刊紙「デュニャ・ガゼテシ」の主催により、イスタンブール金融センターで「世界経済：トルコ経済の展望－2025」をテーマとしたデュニャ・グローバル経済サミットが開催されました。メフメト・シムシェク財務大臣やベキル・ポラト投資・財務局副長官ら著名な出席者が名を連ねました。

ポラト副長官は挨拶の中で、AI 主導のデジタル変革が現在世界のビジネスアジェンダにあると指摘し、「今日、各国は数字だけでなく、戦略とビジョンでも競争しています」と述べました。

グローバルな外国直接投資（FDI）の動向について、ポラト副長官は企業がコストや労働力以外の幅広い要素を考慮するようになったと強調。2022 年から 2024 年にかけて、世界の FDI の 75% が未来を形作る産業をターゲットとし、AI 関連投資の大半はデータセンター、半導体、研究開発（R&D）に集中したと述べました。



アンタルヤ～アラニヤ高速道路に 17 億ユーロの投資を確保

アンタルヤ～アラニヤ高速道路プロジェクトの融資契約がアンカラで開催された式典で調印されました。式典には運輸・インフラ大臣アブドゥルカディル・ウラルオウル氏、戦略・予算大統領府 イブラヒム・シェネル長官、官民連携（PPP）部門投資局長アリ・カミル・オズメン氏、リマック・グループ幹部、銀行・金融機関・プロジェクト管理チーム代表者が出席しました。

式典で演説したアブドゥルカディル・ウラルオウル運輸・インフラ大臣は、トルコの地中海回廊における移動手段、貿易、観光を変革する画期的な官民連携（PPP）事業であるアンタルヤ～アラニヤ高速道路プロジェクトの資金調達完了を発表しました。

同大臣によれば、総投資額 24 億 3000 万ユーロのこのプロジェクトは、30%の自己資本と 70%の負債（うち 17 億ユーロは長期のサステナビリティ連携融資）を組み合わせることで資金調達されます。

同大臣によれば、年間 169 億トルコリラの時間節約と 8 億トルコリラの燃料費削減が見込まれ、合計 177 億トルコリラになると予測されています。さらに、年間 4 万 7 千トンの CO₂ 排出削減により、トロス山脈の松林と地中海の海洋環境保護に貢献する見込みです。

ウラルオウル大臣はトルコのビジネスエコシステムに対する国際的な信頼を強調し、「官民連携は建設モデルであるだけでなく、資金調達モデルでもあります。多額の資金を要するプロジェクトにおいて、公的資金を用いることなく、民間セクターの能力と資金調達力を活用することで、投資をはるかに迅速に実現可能にします。業界関係者はよく理解している通り、国際金融機関が『このプロジェクトに融資する』と表明し信用供与を行うことは、当該国の安定性と経済に対する信頼を示す最も重要な指標の一つなのです」と述べました。

開発銀行コンソーシアム、すなわちイスラム民間セクター開発公社（ICD）、イスラム開発銀行（IsDB）、アジアインフラ投資銀行（AIIB）、黒海貿易開発銀行（BSTDB）が、アクバンク、バーレーン・クウェート銀行（BBK）、ドイツ銀行、ガランティ BBVA、中国工商銀行、クウェイト・トゥルク投資銀行、カタール国立銀行（QNB）、ヴァクフバンク、ジラート銀行など複数の商業銀行がプロジェクトへの融資を提供。さらに、一帯一路構想の主要機関であるシルクロード基金は、トルコにおける初の長期融資投資を完了しました。

特筆すべきは、本融資がサステナビリティ連携融資原則（SLLP）に沿っており、ISS コーポレートからグローバル ESG 基準への準拠を確認する独立したセカンドパーティオピニオンを取得していることです。

アンタルヤ～アラニヤ高速道路は、開通時には 7 つのインターチェンジ、総延長 4,365 メートルの 5 つのトンネル、総延長 5,966 メートルの 16 の架橋、4 つの高速道路サービス 施設を備えます。設計速度は最大 140km/h で、アンタルヤとアラニヤ間の移動時間を 2.5 時間からわずか 36 分に短縮し、地域のアクセス性と安全性を大幅に向上させます。

トルコは、交通網と持続可能な成長を支える戦略的インフラプロジェクトを通じて、物流の要衝としての地位を引き続き強化しています。



ウーバー（Uber）、モビリティと配送ソリューションの未来を推進するグローバル技術ハブにトルコを選択

ウーバー（Uber）は、モビリティと配送ソリューションの革新を加速するため、イスタンブールに新たな技術ハブを開設すると発表しました。この取り組みは、ウーバーが北米以外で行う最大規模の投資の一つであり、トルコをグローバル技術開発の戦略的拠点として位置付けるものです。

発表式典には、メフメト・ファティフ・カチル産業技術大臣、A・ブラク・ダールオール投資・財務局長官、ウーバー（Uber）のダラ・コスロシャヒ CEO およびプラヴィン・ネッパリ・ナガ最高技術責任者が出席。同社は今後 5 年間でトルコに 2 億米ドルを投資し、現地技術人材を倍増以上にする計画を明らかにしました。

また同イベントでは、ウーバー（Uber）と投資・財務局、産業技術省の間で 2 件の覚書（MoU）が調印され、トルコのモビリティ・配送産業の発展に寄与する情報と専門知識の生産的な交換を促進する戦略的協力が行われます。

ウーバー（Uber）が最近買収したトレンドヨル・ゴアのエンジニア、プロダクトマネージャー、デザイナー、データサイエンティストからなる 180 名のチームがウーバー（Uber）に加わり、イスタンブール拠点のテックハブの中核を形成します。同センターはトルコを代表する技術人材を結集し、世界中の数百万のウーバー（Uber）ユーザー、企業、ドライバー、配達員に向けた革新的な製品を開発します。

式典でのスピーチでカチル大臣はトルコの戦略的位置を強調し、「関税同盟や貿易協定を通じて 10 億人以上の市場へのアクセス、グローバル・バリューチェーンにおける中心的な位置、そして熟練した人的資本により、トルコは今後も投資家にとって魅力的な拠点であり続けるでしょう」と述べた。

大臣はさらにトルコの強固な研究開発（R&D）基盤を強調。「700 社を超える国際企業がトルコのテクノパークやR&Dセンターで活動を継続しています。多くのグローバルテック企業が高度なR&D拠点をトルコに設置し、有能な人材プールと魅力的な優遇プログラムの両方の恩恵を受けています。」

一方、投資・財務局長官 A・ブラク・ダールオール氏は演説で、ウーバー（Uber）の決定をトルコにとっての重要な節目と位置付けました。「ウーバー（Uber）がイスタンブールにグローバル技術ハブを設立する決断は、トルコの世界水準のエンジニアリング人材とイノベーション能力に対する強い信頼の証左です。」

ダールオール氏はさらに、トルコが人材の結節点として果たす独自の役割に言及し、「若く活力ある人口を擁するトルコは、地域最大級の人材プールを提供し、研究開発とイノベーションの結節点としての役割を担っています。ウーバー（Uber）の長期投資を歓迎します。これはトルコが技術と研究の世界的中心地としての地位をさらに強化するものです」と述べました。

ウーバー（Uber）のグローバル技術責任者ブラヴィン・ネッパリ・ナガ氏も同意見を示し、トルコの卓越したエンジニアリングを称賛しました。「この投資は、ウーバー（Uber）のトルコへの長期的なコミットメントと、同国が有する類まれなエンジニアリング人材の強さを反映しています。我々はトルコ人エンジニアの創造性と技術力を直接目にしてきました。」



トルコのテックシーンが脚光を浴びるーイスタンブールで初の Slush'D 開催

イスタンブールで初めて、世界有数のスタートアップイベント「スラッシュ (Slush)」のコミュニティ主導版「Slush'D」が開催された。2008 年にヘルシンキで始まったスラッシュ (Slush) は、創業者、投資家、テックコミュニティをつなぐグローバルな運動へと成長し、2024 年には 13,000 人以上が参加した。Slush'D はこの精神を地域エコシステムに持ち込み、強靱な起業家がグローバルネットワークと繋がりながらインパクトを生み出すことを支援します。

フィンテック、AI、ゲーム、新興市場分野のグローバル投資家、事業者、起業家を結集した Slush'D イスタンブールは、イスタンブールが大陸の交差点に位置し、イノベーションと起業家精神が集結する戦略的拠点であることを浮き彫りにしました。

投資・財務局長 A・ブラク・ダールオール氏は、「デジタル・テック・イノベーションの交差点：トルコ新興スタートアップエコシステムに投資する理由」と題した開会セッションの基調講演者としてイベントに参加。TurkNet CEO ユヌス・チェレビレル氏との対談では、トルコのダイナミックなスタートアップ環境と、同国がグローバル投資家・創業者に提供する独自の価値を強調しました。

「過去 10~15 年で、トルコは技術とイノベーションにおいて目覚ましい変革を遂げました」とダールオール氏は述べました。「最近では主要なグローバル技術ブランドがトルコに進出を果たしており、これは我々のエコシステムにおける最も重要な節目の一つです。より多くの技術企業がトルコを拠点に選ぶことを目指しています。」

ダールオール氏は国内市場の強みを強調し、「8600 万人の人口を擁するトルコは、企業が新製品・サービスを投入するための活気あるテストベッドを提供します。強固な銀行セクターと堅牢なデジタルインフラによる、スタートアップの成長と拡大を支える環境が整っています。トルコはデジタル化と技術に関する国際指標で常に上位に位置しており、当市場がダイナミックかつ競争力があることを示しています」と指摘しました。

ダールオール氏はまた、初期段階への投資の急増を強調しました。「2010年から2019年にかけて、初期段階のテクノロジースタートアップは年間平均約1億米ドルの資金を調達しました。パンデミック後、この数字は急激に上昇し、年間10億米ドルを超えました。この成長は創業者の力強さだけでなく、アクセラレーター、インキュベーター、エンジェル投資家、VCファンドなどエコシステム全体の進化を反映しています。今日では、エコシステムは極めて大規模かつ多様化しており、もはや単一の図表では捉えきれないほどです。」

ダールオール氏は、トルコが地域における中核的存在としての役割を強調し、次のように述べました。「技術、製造、サービス、研究開発、物流への投資は、トルコが地域ハブとなったことを示しています。スタートアップエコシステムにおいても同様のことが言えます。トルコは、起業家、投資家、イノベーターが協力して世界的な影響力を生み出すハブとして確固たる地位を築いています。」

起業家精神、戦略的な立地、イノベーションを牽引する人材を背景に、トルコは新興スタートアップの拠点として存在感を増し続けています。Slush'D イスタンブールへの投資・金融局の参加は、起業家、投資家、革新者が未来を築くことを支援するという同国の決意を改めて示しました。



トルコ、イスタンブールでのプライベート・キャピタル・エグゼクティブ・ブリーフィングで投資力の成長をアピール

投資・財務局の主催、グローバル・プライベート・キャピタル協会（GPCA）との戦略的パートナーシップにより、グローバルテュルク・キャピタルの第7回年次プライベート・キャピタル・エグゼクティブ・ブリーフィングがイスタンブールで開催された。

「変化するグローバル投資環境におけるトルコとその周辺地域：資本・技術・持続可能性」をメインテーマに掲げた本会議には、55社以上の国際投資家と300名以上のシニアレベルの参加者が集結。マクロ経済政策、プライベート・エクイティ・債券市場の変革、技術投資の台頭、持続可能な成長戦略などにわたり議論が交わされました。

チェヴデット・ユルマズ副大統領はビデオメッセージで会議に挨拶し、ファティ・カチル産業技術大臣、A・ブラク・ダールオール投資・財務局長、アルダ・エルムット・トルコ国家資産基金（TWF）CEO 兼取締役が出席しました。

カチル大臣は演説で、技術的優位性はもはや発展の原動力であるだけでなく、世界的なリーダーシップへの道でもあると述べました。「中高技術・高技術輸出は2002年の100億米ドルから昨年は1010億米ドルに増加しました。これは10倍の飛躍です。ハイテク生産は業界平均を上回るペースで成長しています。」と大臣は語った。

カチル大臣は、研究開発（R&D）と技術分野で達成された進歩が、特に急速に発展する防衛産業において具体的な成果を生み出していると強調しました。「今日、トルコは軍事用無人航空システム分野で世界をリードしています。これは我々の技術力と革新能力を明確に示す証拠です」と述べた。カチル大臣はさらに、トルコが現在

自国の訓練機、ヘリコプター、海上プラットフォーム、陸上システム、衛星を開発中であり、この成功事例を他分野へ拡大することが目標だと付け加えました。

会議では、A・ブラク・ダールオール氏がトルコの堅調な経済に焦点を当てたプレゼンテーションを行いました。世界的な課題にもかかわらず、過去 22 年間で規模が 5 倍に拡大し、20 四半期連続で着実な成長を維持している点を強調しました。ダールオール氏は、トルコが欧州・アジア・中東の交差点に位置し、GDP 合計 32.1 兆ドル・消費者 13 億人を擁する市場へのアクセスを有することを強調。トルコ航空の 131 カ国をカバーするグローバルネットワークに支えられた製造・輸出拠点としての役割を訴えました。

一方、グローバルテュルク・キャピタルの創設者兼マネージングパートナーであるバルシュ・オネイ氏は、本イベントが世界中で総額 3.5 兆ドルの資産を運用するファンドの上級幹部を集めるユニークなプラットフォームであると強調しました。

会議中に開催されたパネルディスカッションでは、地域協力、投資・撤退戦略、ファンドオーナーからの資金調達プロセス、イスタンブール証券取引所とロンドン証券取引所が提供する新たな投資・退出機会に焦点が当てられ、参加者はトルコの直接投資戦略において国際資金を惹きつける機会を評価し、今後 5 年間の産業、技術、エネルギー、医療、農業、デジタル化分野における投資の方向性について議論しました。



トルコ、参加型銀行を通じてイスラム金融における地位を強化

第13回イスラム経済・金融サミットが、アナドル通信社との共催で、イルケ財団傘下のイスラム経済研究センター（IKAM）によりイスタンブールのボアジチ大学で開催されました。

本イベントには、イスラム経済・金融分野の主要政策立案者、業界幹部、学者が集まりました。参加者は、参加型銀行、ベンチャーキャピタル・プライベートエクイティファンドの上級代表者、規制当局、その他金融サービスエコシステムのメンバーが含まれていました。

サミットでは、投資局長 A・ブラク・ダールオール氏が基調講演を行い、トルコ金融エコシステムにおける参加型銀行の戦略的重要性を強調しました。

ダールオール長官は、トルコにおける参加型銀行が現在、銀行システム全体の8%強を占めていると指摘。参加型銀行が提供する融資総額の約半分が中小企業（SME）向けであることを強調し、同セクターの価値を浮き彫りにしました。ダールオール長官はまた、ベンチャーキャピタルや投資ファンドなど、参加型金融の原則に基づいて運営される代替投資手段の台頭により、参加型金融商品の範囲が拡大し多様化していることを指摘しました。

資本市場に言及し、ダールオール長官はスクーク（イスラム債券）発行の増加を強調し、公的機関も積極的な発行体となっていると述べました。さらに、レジェップ・タイイップ・エルドアン大統領が参加型金融の発展を一貫して推進し、政策形成や機関への働きかけを通じてこの分野の強化を図っている点を強調しました。

ダールオール長官は結論として、イスタンブール金融センターがイスラム経済・金融の主要な地域ハブとなる可能性を秘めていると述べました。トルコの長期目標はこの分野における世界的な中心地としての地位確立であり、このビジョンを支援するため金融・非金融双方のインセンティブが実施されていると付け加えました。

マルマラ大学イスラム経済金融研究所のムラト・ヤシュ博士がモデレーターを務めた「参加型金融の観点から見た経済的公正の確保」と題するパネルディスカッションでは、投資・財務局金融部長のタルク・アクン博士が、世界が直面する最も差し迫った課題の一つである富の不平等問題について議論し、イスラム金融の仕組みが世界経済の構造的不均衡を緩和する可能性を強調しました。

投資・財務局は、参加型金融の拡大と、グローバルなイスラム金融エコシステムにおけるトルコの役割強化に引き続き強くコミットしています。



トルコとクウェート、クウェートでのハイレベルレセプションで経済関係を強化

駐クウェートのトルコ共和国大使館は、投資・財務局長 A・ブラク・ダールオール長官が率いるトルコ代表団の公式訪問に際し、ハイレベルレセプションを開催しました。このイベントにはクウェートの有力ビジネスリーダー、上級外交官、著名な来賓が集い、二国間貿易・投資拡大に関する議論の場を提供しました。

駐クウェートトルコ大使トゥバ・ヌル・ソンメズは挨拶の中で、両国間の強固で弾力性のある関係を強調し、両国指導部の政治的意思が多様な分野での緊密な協力実現を可能にしていることを指摘しました。さらに、トルコとクウェートは歴史的・文化的絆だけでなく、一貫して具体的な経済的パートナーシップへと結びついてきた相互信頼の基盤を共有していると述べました。

ソンメズ大使は、大使館がクウェート企業によるトルコ投資の促進と、持続可能なビジネスパートナーシップを支えるための制度的連携強化に引き続き尽力することを表明しました。

投資局長の A・ブラク・ダールオール長官は、トルコの経済情勢の向上とクウェート投資家向けの多様な投資機会について見解を共有しました。貿易、防衛、観光などの主要分野を特定するとともに、産業横断的な協力の幅広い展望を強調しました。

ダールオール長官は、トルコの戦略的な立地と近代的なインフラが投資の要となる主要要素であると強調。トルコとクウェートの経済関係の潜在力を最大限に引き出すため、パートナーシップの強化を呼びかけました。

クウェートによるトルコへの投資額は 20 億米ドルを超え、主に金融と不動産に集中しています。現在、427 社のクウェート企業がトルコで事業を展開しており、両国間の貿易額は 2024 年に約 7 億米ドルに達しました。

レセプションは「トルコとクウェートは単なる貿易パートナーではなく、共通の未来を形作る戦略的同盟国です」とのメッセージで締めくくられた。

トルコのダイナミックな市場とクウェートの金融力を組み合わせることで、両国は持続的な経済的成功を達成し、地域および世界経済における影響力のあるプレイヤーとなるための好位置に付けています。





GITEX GLOBAL で拡大する技術・投資エコシステムを披露したトルコ

投資・財務局と産業技術省は、世界有数の技術・イノベーションイベントである GITEX GLOBAL において、「Turcorn – Invest in Türkiye」をテーマに統一された国家パビリオンを公開し、強いメッセージを発信しました。これは投資局と産業技術省が主導するトルコ初の共同参加であり、イノベーションと投資の拠点としてのトルコの地位をさらに高めることを目的としています。

パビリオンでは、AI、フィンテック、サイバーセキュリティ、ヘルステック、ロボティクス、ゲーミング、ロジスティクスなど、最先端分野にわたる 23 社の高成長ポテンシャルを持つトルコスタートアップが紹介されました。

出展スタートアップには、ADIN AI、Albert、ArkSigner、B2Metric、Bottobo、Büyütech、Colendi、EDIS、Emece、Enqura、Fizix、Hopgogo、Hypermonk、Macellan、MotionBlur、Navlungo、PulpoAR、RNV AI、RS Research、Saha Robotics、TeamSec、WASK、Yongatek などが含まれ、トルコで急速に成長するテックエコシステムの多様性と深みを反映していました。

初日には、駐アラブ首長国連邦トルコ大使のリュトフラ・ギョクタシュ氏とドバイ総領事のオヌル・サイラン氏がパビリオンを訪問し、スタートアップ企業と直接交流。トルコがイノベーション主導の成長と国際協力に強くコミットしていることを確認しました。

イベントの一環として、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏が「指揮下の資本：投資の新たな地経学」と題したハイレベルパネルに参加しました。ユセル氏は、大陸と資本の流れの交差点に位置するトルコの戦略的優位性を強調し、グローバルな技術主導型成長の次なる段階を形作る同国の役割を指摘。「我々の使命は、

投資家、スタートアップ、技術が収束し未来の機会を解き放つ結節点としてトルコを位置付けることです」と述べました。

第45回 GITEX GLOBAL には、6,800社以上のテクノロジー企業、2,000のスタートアップ、180カ国以上のリーダーが集結し、デジタル変革の未来を形作る場になりました。ドバイで毎年開催される本イベントは、AI、サイバーセキュリティ、ブロックチェーン、クラウドコンピューティング、スマートシティなどの画期的な技術を展示する主要なプラットフォームとして機能しています。





トルコ、2026年よりイスタンブールで「GITEX Ai Türkiye」を開催へ

産業技術省、投資局と KAOUN インターナショナルは、2026年9月にイスタンブールで開催予定の「GITEX Ai Türkiye」を共同で立ち上げるための提携を結びました。この合意はドバイで開催された GITEX GLOBAL 2025 期間中に調印されました。

調印式には、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏、産業技術省国家技術局長サドゥッラー・ウズン氏、KAOUN International CEO のトリクシー・ロー＝ミアマンド氏が出席しました。駐 UAE トルコ大使ルトゥフラ・ギョクタシュ氏、ドバイ総領事オマル・サヤン氏をはじめ、トルコ・UAE 両国の政府高官、テクノパークリーダー、ベンチャーキャピタルファンド代表、テクノロジー企業、成長段階のスタートアップも出席しました。

投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセル氏は本イベントの意義について次のように述べました。「トルコが世界的な AI 運動の結節点となるべく取り組む中、GITEX Ai Türkiye は資本とコードが出会う場です。国内発モデルを加速させ、デジタルインフラを強化します。」

ユセル氏はさらに、トルコで急速に拡大する AI エコシステムを強調した。「基盤は現実的で投資に値するものです。1,059 社のアクティブな AI スタートアップ (2025 年第 3 四半期)、1,300 以上の認定研究開発・設計センター、106 のテクノロジー開発ゾーンにまたがる約 12,000 社の企業があります。ハイテク・中高度技術輸出額は 1000 億米ドルを突破。2024 年だけでも優良な外国直接投資プロジェクトにより 100 億米ドルの設備投資が約束されました。」

産業技術省国家技術局長サドゥッラー・ウズンは本イニシアチブの戦略的重要性を強調しました。「GITEX Ai Türkiye が我が国で開催される事実は、我が国の技術エコシステムの成熟度とトルコが国際的に醸成する信頼を明確に示すものです。強固な生産基盤、熟練した人材プール、そしてダイナミックな起業家精神のエコシステムを備えたトルコは、国家技術イニシアチブに沿ってこの主要なグローバルイベントを主催する準備が完全に整っています。」

2026年9月9日～10日にイスタンブール・エキスポセンターで開催予定の GITEX Ai Türkiye は、AIの採用、投資、パートナーシップを加速させるトルコおよびユーラシア地域で最も国際的な集まりとなることを目指しています。本イベントは、2025年に180カ国以上から6,800社以上のテクノロジー企業、2,000以上のスタートアップ、リーダーを集めたドバイのグローバル GITEX プラットフォームの成功を、トルコ技術エコシステムの中心地にもたらしめます。

トルコは、デジタルとイノベーションの結節点としての地位を確立する準備が整っています。



トルコ AI サミット、BAŞLAT LLM デモデーで AI エコシステムを特集

トルコ AI サミットは、テクノロジーと投資分野の主要人物を集め、グローバル AI エコシステムにおけるトルコの成長する役割を明らかにしました。トルコ人工知能イニシアチブ (TRAI) が主催する 8 回目の本イベントは、「Beyond Intelligence (知性を超えて)」をメインテーマに 2 日間にわたり開催されました。今年は様々な分野から 340 機関の代表者と 1,500 人以上の参加者が集結。初めて「ビジョン」「インパクト」「イノベーション」の 3 つの専用ステージを設置し、知識交流と協業のためのダイナミックな環境を創出しました。

今年のサミットの主要なハイライトは、Meta、Hello Tomorrow Türkiye、TRAI の共同イニシアチブである「BAŞLAT LLM インパクトプログラム」の決勝戦でした。技術志向の起業家精神を促進するために設計されたこのプログラムは、生成 AI とオープンソース LLM ソリューションを開発するスタートアップを支援し、トルコ国内外で有意義なインパクトを生み出すことを目指しています。投資・財務局と Meta が共同開催した「BAŞLAT LLM デモデー」では、基調講演と表彰式が行われ、同分野のトップイノベーターを称えました。

投資・財務局副局長ベキル・ポラトと Meta トルコ・アゼルバイジャン公共政策ディレクターのセゼン・イエシルがビジョンステージで基調講演を行いました。ポラトは「トルコ及び周辺地域における AI 技術の社会的・経済的影響の拡大」と題した講演で、トルコの急速に拡大する技術・起業エコシステムを強調し、「トルコの技術・起業エコシステムは欧州で最も急速に成長するエコシステムの一つに発展しました。過去 4 年間でトルコはこの分野に 50 億米ドル以上の投資を集めており、これは成長を続けるデジタル経済と我が国への投資家の信頼を証明するものです」と述べました。

イノベーションステージでは、投資・財務局広報部長のギョクハン・ユセルと Meta 地域政策キャンペーン・プログラム責任者のアンチャル・メータが「AI 導入におけるセクター横断的連携の役割」と題した対談を行いました。議論では、トルコ国内の様々な産業が AI を業務に統合する手法が探られた。ユセル氏はトルコの強固な人材基盤を強調し、「トルコは欧州最大級の若年層人材プールを誇ります。デジタルネイティブ世代で平均年齢 34 歳、ICT 専門家の基盤も拡大中です。この人口構成上の優位性が、イノベーションの持続的拡大を支える基盤となっています」と述べました。また、初期段階の投資成長にも言及し、「トルコの初期段階資金調達は、

2010年～2020年の8億1500万ドルから、過去4年間で50億ドルに急増し、トルコを欧州で最も高いパフォーマンスを発揮するエコシステムの一つに位置づけています」と付け加えました。

プログラムは「BAŞLAT LLM アワード授賞式」で締めくくられ、9社の最終選考スタートアップがプロジェクトを発表。投資・財務局セクター活動専門家のビラル・シャミル・オカン氏が審査員を務めました。上位3社（F-Ray Financial Technologies、OCTAPULL、Time Reactor）が総額5万米ドルの賞金を獲得しました。

2020年の開始以来、BAŞLAT LLM プログラムは80社以上のスタートアップを支援し、800万米ドル超の投資獲得に貢献してきました。



第 18 回ヴェローナ・ユーラシア経済フォーラムでトルコの回復力と成長が注目される

第 18 回ヴェローナ・ユーラシア経済フォーラムがイスタンブールで開催され、メフメト・ヌリ・エルソイ文化観光大臣、アルパルスラン・バイラクトルエネルギー天然資源大臣をはじめ、ベキル・ポラト投資・財務局副長官ら著名な講演者による開会挨拶が行われました。

ポラト副長官は演説の中で、トルコが国際投資家から回復力のある急成長経済と見なされており、過去 20 年間で年平均 5.3% の成長率を達成していることを強調しました。さらに、平均年齢 34.4 歳の若年層人口、欧州・アジア・中東の要衝という戦略的位置、過去 20 年間で 3,000 億米ドル、今後 20 年間でさらに 2,000 億米ドルの巨額インフラ投資計画を強調しました。

グローバル投資パラダイムの変化に言及し、ポラト副長官は「新規グローバル直接投資の 75% が未来を形作る分野をターゲットとしており、AI インフラには 3700 億ドルが投資されています」と指摘。データを「デジタル経済の新たな石油」と表現しました。

トルコは継続的な改革と先見的なビジョンにより、人材・イノベーション・技術の結節点としての地位を強化し続けています。



第7回デジタルCEO&リーダーズサミット、イズミルで開催

第7回デジタルCEO&リーダーズサミットが、今年のテーマ「The NexTTT - 変革、技術、トレンド」のもと、イズミルでビジネス界の主要人物を集めて開催された。サミットはグリーン変革、デジタル化、持続可能な成長という視点から、世界経済の未来に焦点を当てました。

オメル・ポラト貿易大臣が基調講演を行い、イズミル県知事スレイマン・エルバン、投資・財務局副局長ベキル・ポラト、トルコ輸出業者会議所会長ムスタファ・ギュルテペも登壇しました。

ポラト副局長は挨拶の中で、投資局の公式な使命を概説した後、トルコのFDI実績と戦略について、デジタル変革とグリーン変革の両分野における同国の強固な実績に焦点を当てて見解を述べました。

本サミットは、変革・技術・トレンドから生まれる新たな機会を探求する場として機能し、官民の代表者が共通のビジョンを共有する場となりました。このビジョンに沿い、投資局はトルコがグローバル投資エコシステムにおけるデジタル・技術・持続可能性の結節点としての地位を引き続き強化しています。



投資・財務局、ウィーンで「トルコにおける貿易と投資」会議を共催

投資・財務局とオーストリア連邦経済会議所は、ウィーンにて「トルコにおける貿易と投資」会議を共催しました。

出席者には、投資・財務局副局長ベキル・ポラト、駐オーストリアトルコ大使ギュルセル・ドンメズ、オーストリア連邦経済会議所副会長ヴォルフガング・ヘズーンをはじめ、多数のトルコやオーストリアの企業リーダーが名を連ねました。

ドンメズ大使は、トルコとオーストリアの二国間貿易額が2024年に47億ユーロに達したことを強調し、両国間の強固で持続的な関係を改めて確認しました。

一方、ポラト副局長は「投資とイノベーションによる戦略的架け橋の構築」と題したプレゼンテーションで、トルコのイノベーション急成長を強調。「過去4年間でトルコのテック系スタートアップ企業に50億米ドル以上が投資され、デジタル変革と持続可能性における強力な勢いを反映しています」と述べました。

本会議ではさらに、投資・財務局カントリーアドバイザーのファルク・クルトゥルムシュ氏がモデレーターを務めるパネルディスカッションが行われ、オーストリア投資家にとってトルコが魅力的な投資先である理由を探りました。



投資・財務局、Eコマース・小売サミットでトルコの台頭する役割を強調

イスタンブール金融センターで開催された「Eコマース・小売サミット」には、公的機関、金融セクター、ビジネスエコシステムの主要関係者が一堂に会しました。

「次世代 E コマース・小売エコシステム」と題したパネルディスカッションで登壇した投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏は、トルコが E コマース分野で存在感を増している点を強調。

ポラト氏は演説で、トルコの人口 8500 万人のうち 7000 万人がインターネット利用者であり、4500 万人が積極的にオンラインショッピングを利用している点を強調。トルコが欧州で最も若く最大のデジタル市場の一つであることを指摘し、同国のフィンテック分野が過去 4 年間で 4 億米ドルの投資を集めたと述べました。

若く技術に精通した人口を擁するトルコは、人材の結節点として位置づけられています。



フランス・トルコビジネスフォーラムが経済・投資関係の強化に向けた舞台を整える

パリのビジネス・フランスが主催したフランス・トルコビジネスフォーラムは、両国の経済および投資関係を強化する重要なプラットフォームとしての役割を果たしました。このフォーラムには、投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏、駐フランストルコ大使ユヌス・デミール氏、ビジネス・フランス最高経営責任者代理ブノワ・トリヴルス氏、およびビジネス界の代表者など、200人以上の主要リーダーが参加しました。

基調講演の中で、ポラト副局長は、トルコが過去 22 年間に年平均 5.3% の成長率を維持し、この地域における安定した投資の拠点としての地位を確立していることを強調しました。また、トルコが地域の輸出拠点としての役割を担っていることを紹介し、投資家に幅広い機会を提供していることを強調しました。また、トルコの戦略的な立地、熟練した人材、先進的なインフラ、強力な生産能力といった強みが、投資の拠点としての地位を強化していることも指摘しました。

さらにポラト副局長は、トルコが外国直接投資（FDI）に対して安全かつ持続可能な環境を提供していることを強調し、既存のフランスとの経済協力が二国間投資の拡大を通じてさらに深化することが期待されると述べました。

こうした文脈において、本フォーラムはトルコとフランスのビジネスコミュニティ間の連携促進と長期的な経済関係の深化に向けた重要な一歩と見なされました。



投資・財務局がトルコ・スペインビジネスネットワーキングイベントに参加

投資・財務局は、イスタンブール商工会議所（ITO）がトルコ・スペイン商工会議所と共同で開催したトルコ・スペインビジネスネットワーキングイベントに参加しました。

本イベントは、経済関係の強化、投資機会の探求、両国ビジネスリーダー間の直接的な連携促進に焦点を当てました。主な登壇者には、投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏、ITO 理事バハディル・ヤシク氏、トルコ・スペイン商工会議所会長ヤセメン・コロクチュ氏、アンカラ駐在スペイン大使館公使ゴンサロ・アルバレス・ガリド氏が名を連ねました。

イベントでは、投資・財務局アナリストのアナス・マクマルジ・ホガ氏が、トルコの投資環境とスペイン投資家にとって高い潜在性を有する主要セクターに関する知見を共有しました。

ネットワーキングディナーで締めくくられた本イベントは、トルコとスペインの企業間における今後の協力促進に寄与しました。



モビディクタム・カンファレンス、イスタンブールにゲーム業界リーダーが集結

地域最大級のゲーム産業イベント「Mobidictum Conference 2025」がイスタンブールで開催され、世界中のテクノロジー企業や経営陣が一堂に会しました。

投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏はパネリストとして参加し、ゲームエコシステムをさらに発展させる政府の取り組みについて議論しました。

「トルコ政府はゲーム産業を単なる娯楽と見なすのではなく、戦略的かつ輸出主導型で技術集約的な分野と位置付けており、その支援体制はこのビジョンを明確に反映しています」とポラト氏は述べました。

ポラト氏はさらに、インフラと優遇措置、輸出と国際化、エコシステム開発、ベンチャーキャピタル、トルコにおけるゲーム産業のエコシステムについても言及しました。

トルコはイノベーションの拠点となるべく確固たる歩を進めており、ゲーム産業などの新興分野に一層の焦点とエネルギーを注いでいます。



第 6 回 FDI と都市フォーラム、都市再建における FDI の役割を探る

第 6 回 FDI と都市フォーラムが、ボアジチ大学開発財団（BUVAKIF）と ESSCA 経営大学院－ESSCA EU アジア研究所の共催により、ボアジチ大学および投資金融局との連携のもとイスタンブールで開催されました。

「外国直接投資と紛争後の都市再建」をテーマに開催された本フォーラムでは、紛争の影響を受けた都市の再建と、持続可能で包摂的な都市成長の促進における FDI の役割が議論されました。

「トルコの FDI 戦略と都市レベル投資促進」セッション内の「FDI による地域開発の強化：トルコの経験」と題したパネルディスカッションでは、YASED 国際投資家協会事務局長セルカン・ヴァランドヴァの司会のもと、投資・財務局戦略部長マフムト・ムヒディン・ケスキがトルコの FDI 政策枠組みと地域投資促進の実践について見解を共有しました。議論では、効果的な政策実施と質の高い投資が、トルコ全土の都市における均衡ある地域開発と経済的回復力にどのように寄与するかが強調されました。

レジリエンスの要として、トルコは地域経済と都市開発を強化する国際的パートナーシップと持続可能な投資を引き続き促進しています。



グローバル・イスラム金融フォーラム 2025 がクアラルンプールで開催

グローバル・イスラム金融フォーラム 2025 (GIFF) が「伝統と未来をつなぐ：ビジネスの推進、コミュニティのエンパワーメント」をテーマにクアラルンプールで開催されました。

投資・財務局を代表し、フルカン・カラヤカ副局長、タリク・アキン財務部長、ビラル・イルハン国別アドバイザー、ベイザ・トプズアナリストが本イベントに出席しました。

本フォーラムには 45 カ国から 1,000 名以上が参加し、20 以上のセッションが開催されました。トルコからはイブン・ハルドゥーン大学理事会副議長ネジムディン・ビラル・エルドアンによる特別講演を通じて参加しました。

フォーラムの合間には、投資・財務局の職員が主要関係者との B2B 会議を実施しました。

トルコ保険協会 (TSB) とマレーシア・タカフル協会 (MTA) の間で覚書 (MoU) が調印され、トルコとマレーシアの協力関係に新たなマイルストーンが刻まれました。これは 2025 年初頭に投資・財務局が主催した「イスラム金融における未来の構築：トルコ・マレーシアビジネスフォーラム」の直接的な成果です。



バクーで開催されたイスラム金融フォーラム 2025 における投資局

イスラム金融フォーラム 2025 はアゼルバイジャンのバクーで開催され、地域全体のイスラム金融発展に向けた対話と協力のためのハイレベルな場を提供しました。

投資・財務局財務部長タリク・アキン氏は開会挨拶を行い、パネルスピーカーとして参加した後、閉会式で学生たちに修了証書を授与しました。

アキン氏は挨拶の中で、アゼルバイジャンにおけるイスラム金融の発展支援がトルコの戦略的優先事項の一つであることを強調し、この分野におけるトルコの経験を共有することが、地域の財政の協調と二国間経済協力の深化に重要な役割を果たすと指摘しました。

プログラムの一環として、投資・財務局代表団はアゼルバイジャン共和国中央銀行、MÜSİAD アゼルバイジャン、Invest AZ とも建設的な協議を行い、協力拡大とイスラム金融分野における新たな連携可能性の模索に焦点を当てました。



TIW 2025 で革新と技術が融合

トルコ輸出業者会議所主催の第 12 回トルコ・イノベーション・ウィークは、再びイノベーション、技術、起業家精神の分野で最も優れた人材を集結させました。学者から学生、スタートアップから投資家まで、あらゆる年齢層のイノベーション愛好家数千人が集い、未来を形作る画期的なアイデアと刺激的な成功事例を探求しました。

イベントはオメル・ボラト貿易大臣の基調講演で幕を開け、同大臣はあらゆる状況下で輸出拡大を図るトルコの決意を強調。輸出志向型製品・サービスにおける研究開発（R&D）、技術、AI、ブランディング、イノベーションの強化を原動力とした、高付加価値輸出への注力を訴えました。

多様な業界の専門家が登壇し、活気ある雰囲気の中で刺激的な洞察と双方向セッションを提供。投資・財務局はトルコの「世界の結節点」ビジョンを紹介するブースを設置し、同国がグローバルな投資・イノベーションエコシステムにおいて戦略的立場にあることを強調しました。



BASF、ディロヴァシ工場で生産ラインを拡張

グローバルで160周年、トルコ進出145周年を迎えたBASFは、ディロヴァシ工場における新たな分散剤生産ラインの稼働開始により重要な節目を達成しました。この戦略的投資は、装飾用塗料および建設化学品分野における地域顧客のニーズに応えると同時に、業界全体のイノベーションを推進することを目的としています。

開所式には、投資・財務局副局長ベキル・ポラト氏、ドイツ大使館・総領事館関係者、ならびに業界団体代表者が出席しました。ポラト副局長は挨拶の中で、BASFの投資がトルコの「2024-2028年外国直接投資戦略」に沿うものであることを強調し、「この投資はトルコの持続可能な成長ビジョンへの貢献と見なしています。グリーン生産、有資格雇用、輸出能力強化を組み合わせた成功事例です」と述べました。

本投資はBASFの生産ネットワークを強化すると同時に、中東・北アフリカ地域の顧客向けトルコ供給能力を向上させ、同国がバリューチェーンの要としての役割をさらに強化するものです。



トゥーシェ・プリヴェ (Touché Privé)、GCC 拡大のために 500 万米ドルを確保

トルコを拠点とするモダンで上品なファッションブランド、トゥーシェ・プリヴェ (Touché Privé) は、アンプリファイ・グロース・パートナーシップ (Amplify Growth Partnership) から、サウジアラビアを中心に、湾岸協力会議 (GCC) 諸国への事業拡大を推進するための、シャリーア (イスラム法) に準拠した 500 万米ドルの成長資金調達を確保しました。

成長債務として構成されたこの融資は、同地域における旗艦店の計画に資金を提供し、主要な湾岸市場における同ブランドのオムニチャネルでの存在感を強化に使用されます。

トゥーシェ・プリヴェ (Touché Privé) は、デザイン主導のコレクションに対する世界的な需要により、2024 年の収益は約 3,000 万米ドル、前年比 100% 以上の成長が見込まれるなど、強力な商業的勢いを報告しています。

100 以上の国々で顧客にサービスを提供する同ブランドは、e コマースと実店舗小売を融合し、20~45 歳の女性をターゲットとしており、GCC での事業展開を深化させる中で、効率的な規模拡大を図っています。

「サウジアラビアはイノベーションからファッションに至るまで、世界的な変革と近代化の原動力です。アンプリファイ・グロース (Amplify Growth Partnership) の支援を受け、GCC 全域での拡大に注力します。デザイン、コミュニティ、モダンなしとやかさを通じて、女性が自信を持って自己表現できるよう支援するのが私たちの使命です」と、トゥーシェ・プリヴェ (Touché Privé) のエネス・ジャン・ビュユックキョセ CEO は述べました。

新施設は、中東で最も成長著しいファッション市場の一つであるサウジアラビアに拠点を確立するトゥーシェ・プリヴェ（Touché Privé）の戦略に沿うもの。同時に主要小売パートナーとの協議を推進し、好立地に店舗をオープンするとともに、地域全体の物流・顧客体験能力を強化します。

アンプリファイ・グロース・パートナーシップ（Amplify Growth Partnership）は、アジー・キャピタルとニューワ・キャピタルが共同設立したプライベート・クレジット・プラットフォームです。ドバイ国際金融センターを拠点とし、ドバイ金融サービス局の規制下で運営される当ファンドは、テクノロジー活用型かつ消費者志向の企業に対し、柔軟で非希薄化型の資本ソリューションを提供します。

トルコは中東地域で最も活力ある経済圏の一つとして、イノベーション・生産・デザイン主導型起業の地域ハブとしての地位を確立しています。グローバル市場と現地の創造性を結びつけるその能力は、拡張可能な成長機会を求める国際投資家やブランドを引き続き惹きつけています。

この強固なエコシステムにより、トゥーシェ・プリヴェ（Touché Privé）のような企業は国境を越えて自信を持って事業拡大を図ると同時に、トルコがグローバル競争力を持つ付加価値企業を生み出す能力を有することを示しています。



オランダのラーベン・グループ、物流チェーンの重要拠点としてトルコを汎欧州ネットワークに組み込む

オランダの物流大手ラーベン・グループは、欧州全域ネットワークを拡大しトルコを組み入れ、同国を欧州・中東・アジア間の貿易加速化の中核拠点と位置付けました。製造と輸出の結節点としてのトルコの役割が拡大する中、同社はサプライチェーンの効率強化と地域全体での持続可能な輸送ルートの提供を目指しています。

ラーベン・グループのエヴァルト・ラーベン CEO は、トルコのダイナミックな市場と戦略的な立地を強調し、輸出業者が現地で商品を保管し、24 時間以内に EU 市場へ配送できるようになったと述べました。

同社は 2030 年戦略の一環として、グリーン物流・デジタル化・ネットワーク接続拡大に注力し、トルコ事業で 3 年以内に 3000 万ユーロの売上高達成を目指します。

セルマン・チョバン常務取締役が率いるラーベン・トルコは、ブルサ、イズミル、イスタンブールに新施設を開設し、アンカラとメルシンに支店を設置する計画です。

同社はまず、自動車、FMCG、工業製品などの分野に対応し、道路貨物輸送に注力した後、保管および統合物流サービスへと事業を拡大します。チョバン氏は「トルコの物流上の優位性により、欧州市場とアジア市場の両方に同等の効率でサービスを提供できる」と述べました。

エヴァルト・ラーベン氏は、大陸の結節点に位置するトルコの立地を踏まえ、同社は同国を単なる業務拠点ではなく、より重要な地域サプライチェーンを支える将来の物流拠点と見なしていると強調。さらに、南コーカサスとトルコを結ぶ輸送ルートとなるザングズル回廊の可能性にも言及し、これが配送時間とコストを大幅に削減し、トルコをグローバルサプライチェーンにさらに統合する可能性がある」と指摘。「この回廊は地域貿易とエネルギー輸送のゲームチェンジャーとなり得る」と付け加えました。

持続可能性は同社の拡大計画の中心であり続けています。ラーベン・グループはカーボンフットプリント削減のため、環境に優しい車両群、再生可能エネルギー、デジタル最適化ツールに投資しています。

デジタルプラットフォーム「myRaben」は、リアルタイム貨物追跡、予測分析、透明性の高い顧客コミュニケーションを実現し、17 カ国 170 ヶ所の倉庫網におけるサービス品質を向上させています。

13,000 人以上を雇用し年間 1,920 万件の貨物を扱うラーベン・グループは、トルコを欧州およびその先で最も持続可能な物流ネットワークとなるというビジョンへの重要なゲートウェイと位置付けています。



第 14 回年次「Invest in Türkiye」フォーラムがトルコ・英国貿易関係に光を当てる

投資・財務局と EEL Events が共催した第 14 回年次「Invest in Türkiye Forum 2025」では、業界の先駆者や意思決定者が一堂に会し、トルコの主要投資機会を探求しました。

開会基調講演では、英国駐在トルコ大使コライ・エルタシュ氏が挨拶。続いてトルコ・英国貿易関係、プライベート・エクイティ、M&A 動向に関するパネルディスカッションが行われました。

「トルコの投資展望ービジネスリーダーの洞察」パネルでは、投資・財務局金融投資ユニットマネージャーのカアン・マサッチ氏が、トルコの堅調な投資環境、セクター別成長可能性、マクロ経済の方向性を強調し、同国が投資の要衝として果たす戦略的役割を指摘しました。

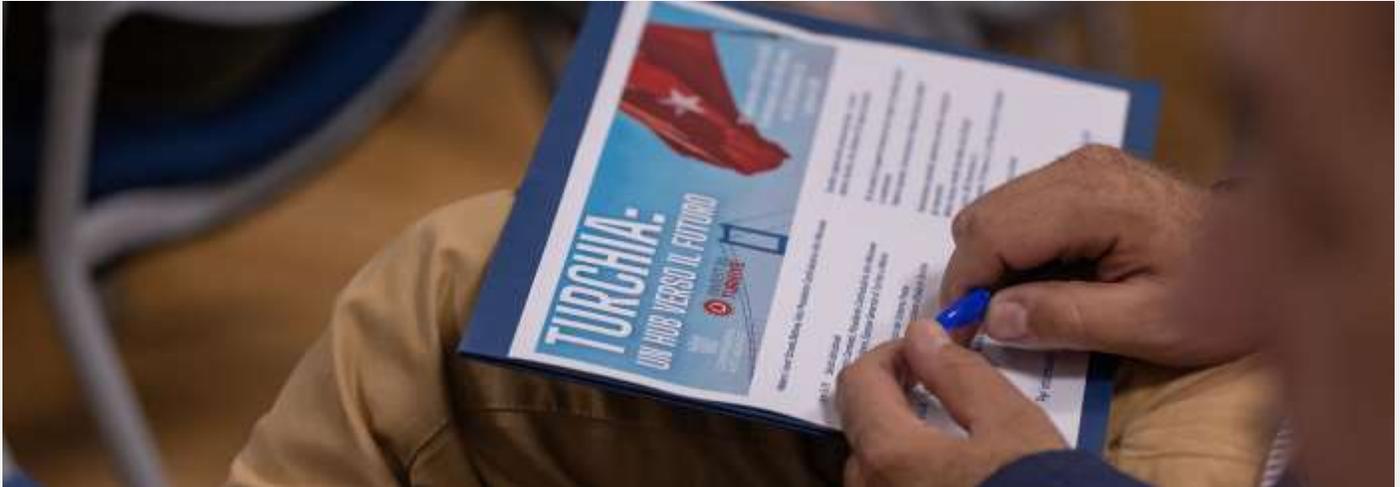


スーパーリターン・グローバルインフラ会議がロンドンで開催

投資・財務局英国担当国別アドバイザーのエネス・ギュゼルは、ロンドンで開催された「スーパーリターン・グローバルインフラストラクチャー会議 2025」に参加しました。この著名なプラットフォームには、世界各国のインフラ投資リーダーが集結し、持続可能な投資戦略や主要セクターの動向について意見交換を行いました。

会議の一環としてギュゼル氏は「グリーン・社会・持続可能性に焦点を当てる」パネルを司会し、「どこに投資すべきか？」セッションではパネリストとしてトルコのインフラ投資機会を強調しました。

投資局は、インフラなどの主要分野に重点を置きながら、世界の結節点としてのトルコの戦略的地位を促進することに引き続き取り組んでいます。



投資局が「イタリアにおける未来へのハブ：トルコフォーラム」を共催

投資局はイタリア・レニャーノにて、コンフィンドゥストリア・アルト・ミラネーゼと共同で「未来へのハブ：トルコ」フォーラムを開催しました。

イタリア企業関係者及び政府関係者 65 名が参加した本フォーラムは、駐ミラノトルコ総領事メフメト・オゾクテム氏及びコンフィンドゥストリア・アルト・ミラネーゼ会長マウリツィオ・カルミナティ氏の歓迎挨拶で開幕し、続いて駐トルコイタリア大使ジョルジョ・マラポディ氏による基調講演が行われました。

投資・財務局カントリーアドバイザーのジーノ・コスタ氏とアルフレード・ノチェラ氏は「トルコの経済・産業シナリオ：データ、トレンド、外国直接投資（FDI）の機会」と題したプレゼンテーションを行い、自動車産業、グリーン成長、化学産業に焦点を当て、投資の結節点としてのトルコの重要な役割を強調しました。

本イベントはイタリア企業に対し、トルコの経済・産業エコシステムに関する包括的な概要を提供し、その競争優位性、成長機会、協力の可能性がある分野を強調しました。



トルコとスペイン、二国間投資・貿易関係強化に向けた覚書に調印

トルコ・スペイン商工会議所とマドリード商工会議所は、トルコとスペイン間の二国間投資とビジネス協力を強化するための覚書（MoU）に署名しました。

マドリード商工会議所会長アンヘル・アセンシオ・ラグナと投資・財務局カントリーアドバイザーヤセメン・コルクチュが署名した本協定は、両国が経済関係の深化、二国間投資機会の促進、トルコとスペインの企業間における強固なパートナーシップの構築に向けた共通の決意を反映しています。

2024年、トルコとスペインの二国間貿易額は191億5000万米ドルに達し、トルコは97億8000万米ドル相当の商品を輸出、スペインからは93億7000万米ドル相当を輸入しました。

2002年から2024年10月までのスペインからトルコへの直接投資総額は114億米ドルに達し、同期間のトルコによるスペインへの投資総額は5億300万米ドルでした。今回の最新協定は、二国間経済関係をさらに前進させ、両国のビジネスコミュニティ間の新たな協力機会を創出することが期待されています。



中国風力発電 2025 でトルコの再生可能エネルギー展望を発表

中国風力発電 2025 が北京で開催され、再生可能エネルギー発電、設備製造、技術開発の主要企業が集まりました。

投資局を代表し、プロジェクトマネージャーのアフメット・サミ・ヤヴズ、カントリーアドバイザーのアフメット・セルハット・トゥラン、エネルギー部門専門家のハルン・キョクサルが本イベントに出席しました。

イベントのサイドイベントとして開催された「国際風力発電市場の発展動向と投資機会」と題するパネルディスカッションにおいて、ハルン・キョクサルは「トルコの再生可能エネルギー展望：風力発電に焦点を当てて」と題するプレゼンテーションを行い、トルコのエネルギー転換、セクターの潜在力、拡大する投資環境に関する知見を共有しました。

トルコは、世界のエネルギー市場における持続可能性の要としての役割を引き続き強化しています。



投資局、G-SUMMIT 2025 に参加

投資・財務局のカントリーアドバイザー、キム・スジョン氏が、韓国を代表するグローバルスタートアップフェスティバル「京畿スタートアップサミット（G-SUMMIT 2025）」にゲストスピーカーとして参加しました。

「国際機関セッション」において、キム氏はトルコの活気あるスタートアップ・イノベーションエコシステムを紹介し、初期段階投資の新たな拠点としての台頭を強調しました。

発表では、政府支援プログラム、グローバル展開の機会、フィンテック・ゲーム・e コマースなどの主要分野における成功事例も紹介されました。

京畿道が主催し、京畿道ビジネス&サイエンスアクセラレーター（GBSA）が運営するG-SUMMITは、オープンイノベーションと国際協力を促進するため、スタートアップ、投資家、企業、公共機関が集まりました。

トルコは今後も、技術・起業家精神・人材・戦略的パートナーシップを結ぶイノベーションの要として、その地位を確立し続けています。

トルコを選ぶ理由

トルコ：イノベーションと成長のためのハブ

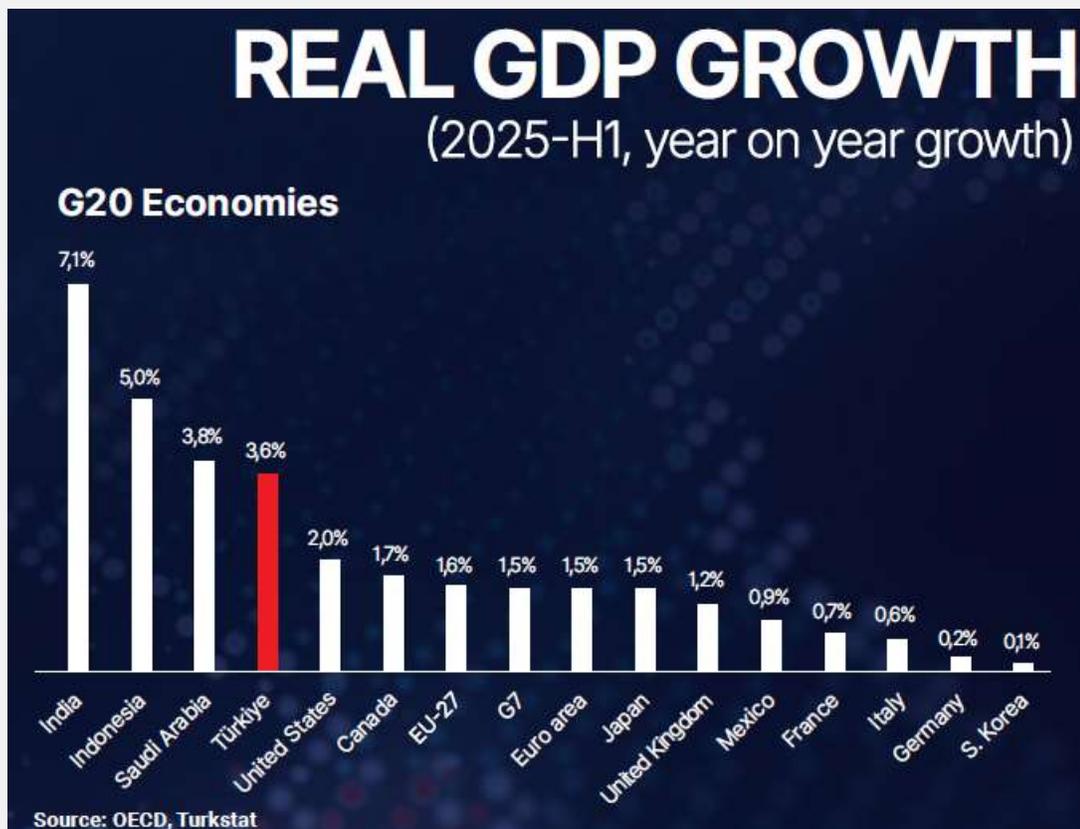
4 時間のフライト圏内で、GDP32.1 兆ドル、貿易 10.3 兆ドル、人口 13 億人の複数市場に容易にアクセス可能。

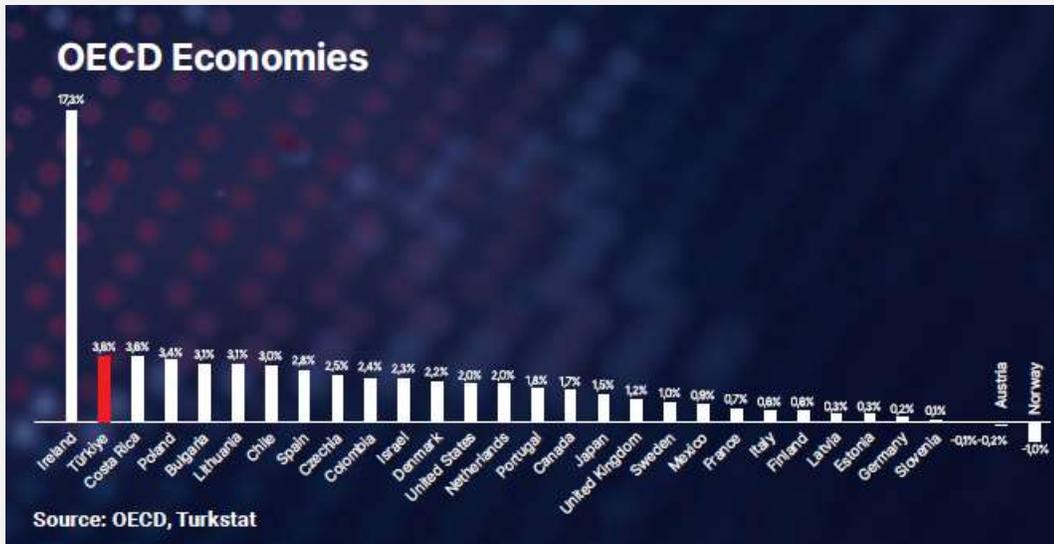
2024 年に 1 兆 3,580 億ドルに達した急成長する経済（2002 年の 2,380 億ドルから）。

2003～2024 年の FDI は 2,730 億ドル以上（1980～2002 年の FDI 総額は 150 億ドル）。

複数市場へのアクセス

地域	GDP	輸入	人口
ユーラシア	2.8 兆ドル	4,670 億ドル	2.44 億人
MENA	4.4 兆ドル	1.5 兆ドル	4.72 億人
ヨーロッパ	24.9 兆ドル	8.3 兆ドル	5.95 億人
合計	32.1 兆ドル	10.3 兆ドル	13 億人





トルコは 2003～2024 年の期間、OECD 加盟国の中で最も急成長した経済であり、平均年間成長率は **5.3%**

トルコへの累積 FDI 流入

- 2003～2022 年平均：124 億ドル/年
- 2003～2024 年累計：2,730 億ドル

ハイライト

ヨーロッパで最も急成長し、世界でも最も急成長する経済の一つ 過去 21 年間（2003～2024 年）の平均年間 GDP 成長率 5.3%

洗練された消費者基盤

- 人口 8,570 万人、その半数が 34.4 歳以下
- 9,640 万人の固定・モバイルブロードバンドインターネット加入者
- EU と比較して最大の若年人口

熟練し献身的な労働力

- 208 大学から毎年約 96 万人の学生が卒業
- 約 3,600 万人の若く、教育を受けた、意欲的なプロフェッショナル

トルコのインフラ開発

- 2,150 億ドル：1986～2024 年の PPP 契約総額

- 272 件：1986～2024 年に完了した PPP プロジェクト総数
- 27,797 床：PPP プロジェクトによる病院ベッド総数（18 の医療キャンパスが完成）
- 58 空港：2002 年の 26 から 2024 年には 58 に増加

私たちについて

投資・財務局は、トルコの投資環境整備を促進し、投資家に支援を提供する公式機関です。トルコ共和国大統領に直接報告します。

支援方法

- 多言語対応（トルコ語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、アラビア語、スペイン語、中国語、日本語、韓国語）
- ワンストップショップアプローチ
- 結果志向
- 完全な機密性を持つ民間セクターアプローチ
- ハイテク、高付加価値、雇用創出型投資に焦点
-

活動内容

- 投資家への投資機会の提示と投資の全段階での支援
- 国際投資家のレファレンスポイントとして、国・地域・地方レベルで投資促進・誘致に携わるすべての機関との連絡窓口
- 市場情報・分析、サイト選定、B2B ミーティング、関連政府機関との調整、事業設立・インセンティブ申請・ライセンス・労働許可取得などの法的手続き・申請の円滑化を含む無料サービスの提供

グローバル拠点 米国、ドイツ、イタリア、スペイン、オランダ、トルコ、サウジアラビア、UAE、カタール、中国、韓国、日本、英国、シンガポール、マレーシア

セクター 農食品、自動車、化学、防衛・航空宇宙、エネルギー、金融投資・スタートアップ、ICT、インフラ、ライフサイエンス、機械、ビジネスサービス、金融サービス、鉱業・金属、不動産、観光